

そうになった。長男はなぜか23歳で大学生。派遣会社の正社員。学校に行かなくていいのかと聞くと、ほくの大学は行かなくても単位をくれるいい大学だという。

長女は二十歳で、この4月に松竹芸能に採用されて研修中。つい先日、夜の8時に麻生警察から電話。痴漢に遭ったらしい。しかし、逃げる痴漢を追いかけ、周りの人も加勢してくれて、つかまえて駅員のところまで連行。謝れば許したのに、しらを切ったからとのこと。次が3つ目。

次男は、18歳で高校3年生。進学したり社会に出て大丈夫かと思っていたのが、大学の推薦に受かった。これだけは明るい事件。

仕事について。

現在、川崎市は85の私立幼稚園があり、その100%が社団法人川崎市幼稚園協会に加入し、園児の数は2万3,000人。川崎市の小学校1年生における私立幼稚園卒園児数の約80%にあたり、それだけ責任がある団体だと思う。月1回、園長会を開いて研修や情報交換を行い、指導者的な立場でいつも小塚先生にご助言をいただいている。全国的には少子化傾向にあるといわれ、川崎市も出生率は低い。しかし特異な例として、子どもの数は微増している。随所で大型マンションが建築されており、園児の数は増えている。地域によっては入園できないのではないかといいところもあるようだ。

そんな中で、いま幼稚園に求められていることの一つは、「子育て支援」。幼稚園は、通常は2時か2時半頃に終わるが、希望する家庭があれば、それ以降も幼稚園で預かる制度を充実させるようにというものだ。その他、園庭を開放して利用してもらい、入園前の親子にもいろんな情報を提供するようにといったことも望まれている。

しかし、働く母親を見据えた動きに偏っているのではないか。保育所は幼稚園と違って、母親が安心して子どもを預けて働くことができる制度で、充分評価しているが、なんでもかんでも子どもを母親から離して預かる制度が、はたしていいのか。親が少し苦勞して長時間ふれあひながら子どもを育てることで、親子の絆や人間に対する信頼関係が育っていくのではないか。純粋な思い



から心配している。

子育ての機会を奪ってしまうことはいけないのではないか。子育てに100%の力が必要だとしたら、それを50%にしてあげるのではなく、100%の力が発揮できるように応援してあげるのが、本当の子育て支援ではないか。このようなことを園長会等で確認し合いながら、子育て支援策の要望に対応させていただいている。在宅で子育てをしていこうという選択をしたお母さんに対しても、同じように支援して欲しいとお願いし、受け入れていただいている。

最後にロータリーに関して。

ロータリーは自分の仕事を通して社会に奉仕をする団体で、週に1回食事の場をもって、親睦を深めて情報交換をするという話を伺って入会させていただいた。正直いって、週に1回、出席するのは大変だと思う。また、年間30万円くらいの会費も簡単なことではないが、自分自身、ロータリーにどういう価値を見出ししていくかということが大事だと思っている。それには食事会で親睦を深めることが大事で、親睦についてはすでに充分深めさせていただいている。いかに大勢の方と知り合いになり、親しくおつき合いをさせていただいて、いろんなことを学ばせていただけるか。これが、私におけるロータリーでの立場かなと思い、食事のときにはいろんなテーブルに座らせていただいている。